

【水彩画クラブ27】卒業後5年目の活動 2017年10月

◆第103回活動:2017年10月9日(月) 午後1時から スエック207室

第5回美術展の準備

- * 出品申込書を、今日出て来られた白井さんに提出した。また、今日出席した10人から出品料:2,000円を徴収。
- * 美術展会期中の受付当番表を作成(担当:坂本さん)

今日の活動から新たな課題写真『山小屋の煙』を描いていく。

前回配布された課題写真(A3判2枚)を各自がF8サイズの縦と横の長さ比で調整してつくった手本から、F8の水彩紙に皆がデッサンしてきた。

今日の活動では山小屋の屋根上側の木々と、左側大木の煙りの中の枝葉を描いていきます。

- 木々が接している山小屋屋根との境に、マスキングを施していく。
 - ① 一番上の煙出し屋根頂点の庇、屋根に置かれている石、右に流れる庇や物置屋根の右端にマスキングを施していく。
 - ② 木々の葉群から見えている幹や枝を、薄い黄色で描いていく。
 - ドライヤーで十分に乾かしてから、ドライブラシ技法で木々の葉群を描いていく。
 - ① 何種類かの緑色の絵の具を水溶きしておく。
少し渋めの緑色をつかっておく。
鮮緑色 No. 1とNo. 2、濃い目の緑色、黄緑、暗青色+黄色・・・
 - ② 黄色みがかかった黄緑(黄色多目+暗青色一)を小筆に取り、黄味がかかった葉群にドライブラシで色をおき、直ぐに水筆でぼかしていく。
 - ③ 濃い目の緑色や、渋めの緑色などで課題写真を見ながらドライブラシで色をおき、直ぐに水筆でぼかしていく。
 - ④ 予めマスキングした屋根際など、課題写真を見ながら接するように色をおいていき、水筆でぼかしておく。
 - 屋根上の立ち昇る煙の中に見える白っぽい枝先などや、青っぽい煙際に白い煙が絡む感じを、マスキングをして表現しておく。
 - 左側大木の右側に垂れている枝葉の葉っぱを描いていく。
 - ① 垂れている枝葉のすき間に見える白い煙に、点々とマスキングしておく。
 - ② 枝葉先端の黄色っぽく見える葉っぱを、面相筆などの小筆に薄めの黄緑色で葉っぱの形に描いていく。
 - ③ 少し濃い目の緑色を面相筆に取り、手本を見ながら葉っぱの形で、方向性を意識して描いていく。
 - ④ 大木に近い方の葉っぱは、渋めの緑色で葉っぱの形で、手本を見ながら描いていく。
 - ⑤ ドライヤーで十分に乾かしてから、描いてきた葉っぱ全部にマスキングしていく。
 - 青っぽい煙の色(鮮青色など)をパレットに水溶きし、水で少し薄めてから4号筆などで手本を見ながら、煙の流れを意識しながら塗っていき、直ぐに周りを水筆でぼかしていく。
 - 暗青色を少し混ぜた青っぽい緑色を面相筆に取り、左側大木間近の葉っぱ群に手本を見ながら葉っぱの形に色をおいていく。
 - 前項2. で描いてきた木々を仕上げていく。
 - ① それぞれの木々の葉境に、葉先に点々とマスキングを施していく。
 - ② 今まで習ってきた林や森の描き方を駆使して、様々な緑色(黄緑、緑、渋めの緑、暗めの緑)で手本を見ながら、ドライブラシ技法で色をおいていき、直ぐに水筆でぼかしていく。
 - 次回(10月23日(月))の活動予定
今日の活動で描いてきた“山小屋屋根上部の木々群”を、各自仕上げてくること。
次会の活動では、山小屋の屋根下部分を描いていく。
- ※ 大型台風21号が23日には東京直撃かとの予報を踏まえ、20日夕方に「23日の活動は休止」として皆なに緊急連絡(メール)した。水彩画クラブ活動として5年目、初めての出来事だった。